



病院内／免疫不全関連感染症診療の考え方と進め方

IDATEN 感染症セミナー

IDATEN セミナーテキスト編集委員会 編
定価 5250 円 (本体 5000 円 + 税 5%)
医学書院
TEL.03-3817-5657

島田 恵

首都大学東京大学院
人間健康科学研究科 准教授

アセスメントのプロセス から治療を理解する

感染症治療は医師にとって難しいだけでなく、看護師にとっても時としてわかりにくいものです。しかし、抗菌薬治療の指示を受けて最終的に患者に投与する看護師も、責任の一端を担っているのは明らかであり、根拠を知らないでは済まされません。

本書は、日本感染症教育研究会 (IDATEN) が日本の感染症診療と教育を普及・確立・発展させるために行なってきた活動の柱である「IDATEN 感染症セミナー」(年に2回、夏と冬に開催)の内容がまとめられた書籍の第2弾です。病院内の各診療科でよくみられる事例から、感染症治療のエキスパートたちがどのような視点でアセスメントし、治療方針を決定してくかを知ることができます。

特に、事例ごとにまとめられている「CHART でみる本ケースにおける考え方と進め方」の、「患者背景を考える」→「感染臓器を考える」→「原因微生物を考える」→「抗菌薬を考える」→「最終的な治療方針」というアセスメントのプロセスは、治療を理解して看護を展開するうえで大いに参考になります。

最善の治療を提供するための協働につなげる

「感染症診療の原則を貫くこと」というコメントからは、「臨床所見から原因微生物を疑い、微生物学的な検査で確定診断をつける」という

原則が実践されず、治療に難渋する臨床の現状への憂いを感じられます。協働する看護師は、医師側にこの原則が貫かれにくい現状があることを理解しておく必要があります。

現在の治療上、困難な点は何か、そして基本的な治療の方向性は何かを理解していれば、患者さんに最善の治療を提供するために協力できます。例えば、患者さんが治療に関して誤解している点や、現状や今後の見通しに関する不安に対応すること、医師が治療を進めるうえで知りたいデータを把握し、看護師として提供すること、また、医師にはない、看護師ならではの視点からの関連データを提供することもできるでしょう。この協働は、医療安全にもつながる大事なことです。

ある感染症科医師が「自分が感染症を好きなのは、原因を突き止めることができれば必ず治すことができるからだ」と言っていたことを思い出しました。しかし、その原因を突き止めることは決して容易ではありません。診療経験の蓄積から導き出されたエビデンスから、また患者さんの背景を丁寧に精査して得られる幅広いヒントから、原因を検索するわけですが、診断的治療にならざるを得ない場合もあるわけです。一例一例を丁寧に振り返り、次の症例に活かす取り組みが必要でしょう。

ちょうど HIV/AIDS 看護のエキスパートたちのアセスメントプロセスを提示したいと考えていたので、大変良いモデルとなる書籍にめぐり合うことができました。